

A.日時： 2023 年 10 月 13 日（金） 16 時 00 分～20 時 00 時

B.場所： 建築会館および ZOOM によるオンライン会議

C.メンバー（下線は欠席者）：

（会長）高田毅士

（副会長）東 貞成、中村いずみ、年縄 巧

（担当理事）小林実央、高橋郁夫、山田岳峰、前川 晃、入江さやか、多幾山法子、皆川佳祐、阿部
慶太、向井洋一、楠 浩一、中嶋唯貴、井上和真、高瀬裕也、小檜山雅之

（監事）永野正行、室野剛隆

オブザーバ出席：戸田薫子事務局長

D.議題および提出資料：

報告事項

- | | |
|--|----------|
| 1) 第 65 回理事会議事録（案）確認（高橋理事） | 資料 66-01 |
| 2) 会務報告（小林理事） | 資料 66-02 |
| 3) 会計報告（前川理事） | 資料 66-03 |
| 4) 広報部会からの報告（入江理事） | 資料 66-04 |
| 5) 情報コミュニケーション委員会からの報告（多幾山理事） | 資料 66-05 |
| 6) 会誌編集委員会からの報告（皆川理事） | 資料 66-06 |
| 7) 国際委員会、地震災害対応委員会からの報告（阿部理事） | 資料 66-07 |
| 8) 論文集編集委員会からの報告（向井理事） | 資料 66-08 |
| 9) 事業企画委員会（企画）からの報告（井上理事） | 資料 66-09 |
| 10) 16JEES 運営委員会からの報告（小檜山理事） | 資料 66-10 |
| 11) 2024 年度大会に関する報告（中嶋理事・楠理事） | 資料 66-11 |
| 12) 将来構想委員会からの報告（東副会長） | 資料 66-12 |
| 13) 関東大震災 100 周年記念セミナーの報告（東副会長） | 資料 66-13 |
| 14) 第 12 回日本地震学会・日本地震工学会会長懇談会の報告（高田会長） | 資料 66-14 |
| 15) メール審議（1 件）結果報告（小林理事） | 資料 66-24 |

議案

- | | |
|--|----------|
| 第 1 号 入退会者（高橋理事） | 資料 65-15 |
| 第 2 号 共催・後援・協賛等（高橋理事） | 資料 65-16 |
| 第 3 号 「大崎順彦（記念）賞」の設立に関する提案について（高橋理事） | 資料 66-17 |
| 第 4 号 電子帳簿法対応事務処理規程と会員システム改修について（前川理事） | 資料 66-21 |
| 第 5 号 16JEES パシフィコ横浜への予約金残金支出等について（小檜山理事） | 資料 66-22 |
| 第 6 号 関東大震災 100 周年記念セミナー開催費分担金支出について（東副会長） | 資料 66-23 |

懇談事項

- | | |
|-----------------------------------|----------|
| 1) 18WCEE 支援内容（案）について（中村副会長・阿部理事） | 資料 66-18 |
| 2) 論文賞のスケジュールについて（年縄副会長） | 資料 66-19 |
| 3) 口座の開設について（事務局） | 資料 66-20 |

議題

報告事項（実際の報告順位は、2), 1), 3), 4), 6), 8), 9), 10), 11), 5), 12), 13), 7), 14), 15)）

- 1) 第 65 回理事会議事録（案）の確認（高橋理事）
 - ・高橋理事より、資料 66-01 に基づいて、第 65 回理事会議事録案の説明がなされた。特段の修正意見はなかった。
- 2) 会務報告（小林理事）
 - ・小林理事より、資料 66-02 に基づいて、前回理事会以降の会務報告がなされた。特段の追加項目等は出されなかった。
 - ・高田会長より、昨日（10/12）に行われた物理探査学会創立 75 周年記念式典・祝賀会の報告がなされた。
- 3) 会計報告（前川理事）
 - ・前川理事より、資料 66-03-02 に基づいて、会計報告がなされた。会費収入の 8 月実績は約 88% で督促を実施中であること、関東大震災 100 周年事業支出は今後関連支出が見込まれること、地震災害調査対応委員会の対外費用は今後の調査費の増加が予想されることなどの説明がなされた。また、12 月に補正予算を検討する（資料 66-03-01 についての説明は省略）ことの説明があった。
 - ・高田会長より、資料 66-03-01 について、研究委員会で予算は取っていて執行がゼロの委員会があるが活動しているかとの質問があった。これに対して戸田事務局長より、津波荷重評価の委員会では 8/24 に委員会を実施し、勉強会も行っていること、救助訓練プログラムの委員会では、連絡が途絶えているものの、昨年度末に活動予定は聞いていることの説明があった。高田会長からは、旅費や会議費が確保されているのでそのことを連絡してほしい旨の要望があった。
- 4) 広報部会からの報告（入江理事）
 - ・入江理事より、資料 66-04-01～03 に基づいて、広報部会からの報告がなされた。モロッコ地震対応があれば連絡が欲しいこと、16JEES のプレスリリースを行うこと、また 16JEES のメディア対応は基本的には入江理事が行うことなどの説明があった（資料 66-04-02 は前回のプレスリリース文、資料 66-04-03 は前回のメディアの取材に対する留意事項）。
 - ・高田会長より、16JEES で会長としての対応が必要なことはあるかとの質問があり、入江理事より特にないと考えられるとの回答があった。
 - ・入江理事より、プレスリリースをどこの名義で出すべきかとの質問があり、小檜山理事より当学会は幹事学会なので当学会名義で大丈夫であるとの回答があった。
 - ・小檜山理事より、後援している内閣府にプレスリリースを配布する必要はないかとの質問があり、入江理事から、内閣府はきちんとした記者クラブがないため通常は配布していないが、内閣府に確認してみるとの回答があった。
 - ・高田会長より、小檜山理事に対して、16JEES でのアピールポイントを入江理事に伝えて欲しいとの要望があり、小檜山理事はこれを了承した。
 - ・入江理事から、各理事に対して、メディアへの追加の留意事項があれば連絡して欲しいとの要望があった。
- 5) 情報コミュニケーション委員会からの報告（多幾山理事）
 - ・多幾山理事より、資料 66-05 に基づいて、情報コミュニケーション委員会の活動について報告がなされた。9,10 月号の JEES News の発行、12 月末発行の NEWSLETTER の企画の検討（JAE COMMUNICATION における学生たちの座談会など）、今後の活動予定などについて説明があった。
 - ・高田会長より、学生たちの座談会は良い企画であるが、座談会で多幾山理事に負担が掛かりすぎ

ないようにリレー式で継続するようなことを考えるのも一案であるとの意見が出された。多幾山理事からは今後は座談会だけでなく企画を色々と変えていきたいとの発言があった。

6) 会誌編集委員会からの報告（皆川理事）

- ・皆川理事より、資料 66-06 に基づいて、会誌編集委員会の活動について報告がなされた。50 号の原稿がまとまったこと、51 号の特集では「関東大震災から 100 年ーこれからの地震工学・地震防災ー(仮)」となる予定であること、また、会員外への会誌の公開については継続審議中であることなどの説明があった。
- ・高田会長より、皆川理事より説明がされた、学会サーバー上の共有フォルダを継続して使用する場合のサブフォルダ作成機能追加等の費用（15 万円）は毎月の値段かという質問があり、皆川理事からは一度限りの値段であるとの回答があった。

7) 国際委員会、地震災害対応委員会からの報告（阿部理事）

- ・阿部理事より、資料 65-07 に基づいて、国際委員会、地震災害対応委員会の活動について報告がなされた。モロッコ地震に関する情報提供、トルコ・シリア地震の調査費用の補助、JEES の国際委員会の準備・対応等に関して説明があった。
- ・高田会長より、16JEES の時に、JAEE として次のアクションの案を協定を結んだ海外の組織・学会長に示したいとの発言があった。これに対して、阿部委員長からは、案を見て検討を進めたいとの回答があった。
- ・小林理事より、上記の（協定を結んだ海外の組織・学会との）次のアクションの案については、理事会で懇談事項として議論できるとよいとの発言があった。

8) 論文集編集委員会からの報告（向井理事）

- ・向井理事より、資料 66-08 に基づいて、論文集編集委員会の活動について報告がなされた。Vol.23 NO.4 の刊行が完了したこと（8/31）、査読を完了した 3 編は 11/30 刊行の NO.5 に掲載予定であること、12 月に刊行予定の英文号は現在査読中であることなどの説明があった。また、論文チェックリストの誤りを修正中であることなどの説明があった。

9) 事業企画委員会（企画）からの報告（井上理事）

- ・井上理事より、資料 66-09 に基づいて、事業企画委員会の活動（事業計画案）について報告がなされた。淑徳与野高校への訪問（講演「地震被害を減らすために出来る 4 つのこと」）についての説明があり、会員外のサービスのあり方に関して検討する必要があることなどの問題提起があった。また、高校への当学会の会誌（過去 1 年分と 2024 年 2 月号、各 1 部）の寄贈について承認依頼があった。その他、講習会、若手の研究発表のミニシンポジウム、Eーディフェンスの見学会についての説明があった。
- ・高田会長より、学会誌の無料の提供は問題ないとの発言があり、理事会として承認された。
- ・井上理事より、事業委員会の増員の要望があり、高田会長より了承の方向との回答があった（注：委員の委嘱については理事会決議事項なので、次回以降理事会で要審議）。
- ・中村副会長より、Eーディフェンス見学会の収支は大丈夫かとの質問があり、バスの値段が上がっているが赤字にはならない予定であるとの回答があった。
- ・高田会長から、高校訪問の担当教員の協力度や参加者からの質問の有無等について質問があり、井上理事から、我々の活動に関しては好意的であったが、公立高校がそうであるとは限らないとの回答があった。また、井上理事から、地震の話と将来の進路が結びつくような形になるとよいとの発言があった。高田会長からは、「日本人として、世界に貢献するにはどのようにしたらよいか？」等の質問ができると良かったとの意見があった。
- ・小林理事から、ICT 技術等の最先端事例紹介は、開催が 4,5 月になると来年度の予算になるため、

時期的な点を考慮して企画して欲しいとの要望があった。

- ・小林理事から、スペシャルアドバイザーの大野先生が来年3月に退任されるが、事業企画で考慮できることがあれば検討して欲しいとの要望があった。

10) 16JEES 運営委員会からの報告（小檜山理事）

- ・小檜山理事より、資料 66-10 に基づいて、16JEES 運営委員会の活動について報告がなされた。論文投稿は 8/29 に締め切り、610 編の投稿があったこと、特別セッション、国際基調セッションの内容が固まったこと、会長懇談会に 9 学会、懇親会に 7 学会が参加予定であることなどが報告された。審議事項として、①招待者の弁当代、懇親会の参加費を JAEE の特定資産から支払うこと、②パシフィコ横浜ノースの会場費残金の支払い、③防災ログ外注費等の執行に関する説明があり、理事会の承認を得たいとの要望があった。
- ・上記の審議事項①～③に関して、理事会として承認された。
- ・小檜山理事より、高田会長には開会式での挨拶、国際基調講演、パネルディスカッションへの参加、懇親会の最後の挨拶をお願いしたいとの要望があった。
- ・高田会長から、基調講演のパワーポイントは事前に送付するののかとの質問があり、小檜山理事からは、配布資料の原稿依頼はあるとの回答が、また、阿部理事から、パワーポイントの提出は不要であるとの回答があった。
- ・高田会長から、海外から来訪する関係者に対して今後連携の案を持って議論したいとの要望があり、小檜山理事から国際基調セッションに関しては阿部理事の担当なので阿部理事に相談してほしい旨の説明があった。その後、本理事会の中で、阿部理事より、国際基調講演セッションでのレジュメに基づいて議論するとの案が示された。

11) 2024 年度大会に関する報告（中嶋理事・楠理事）

- ・中嶋理事より、資料 66-11 に基づいて、2024 年度大会開催に関する検討について報告がなされた。2024 年度の大会開催候補の岐阜のじゅうろくプラザ、長良川国際会議場の会場の状況や会場費用について説明があった。
- ・高田会長から、じゅうろくプラザにて 12 月 3 日～5 日開催で検討を進めたいとの意見があった。
- ・小林理事から、2026 年度の年次大会を日本地震学会と共催する案があることについて、念頭に置いて欲しい旨の発言があった。

12) 将来構想委員会からの報告（東副会長）

- ・東副会長より、資料 66-12(1)～(3)に基づいて（資料 66-12(1)の概要版を中心に）、将来構想委員会の活動について報告がなされた。提案の経緯と位置付け、8 つの検討項目について、また、資料(1)、(2)は会員向けに公開する予定であることなどの説明がなされた。また、この報告書を踏まえて、当学会活動の改正に向けた実行可能なプランの検討と実施を各委員会をお願いしたいとの要望があった。さらに、各委員会で検討の際には東副会長、総務理事の同席、あるいは検討結果の報告をお願いしたいとの要望があった。
- ・高田会長から、各委員会でどのように扱うか、個別に対応して欲しいとの発言があった。
- ・将来構想委員会では、理事会として検討すべきことがあれば実施することとし、また、各委員会の検討状況を委員会で報告して進めて行く予定であるとの発言があった。
- ・東委員長より、報告書を会員専用のホームページのアーカイブにフォルダを作って収納するのがよいと考えているとの発言があった。これに関連して、戸田事務局長からは、フォルダ作成は有料になるので、「その他」の所においてリンクを張る方法もあるとの意見が出された。

13) 関東大震災 100 周年記念セミナーの報告（東副会長）

- ・東副会長より、資料 66-13(1)(2)に基づいて、「関東大震災 100 周年記念一般公開セミナー(2024.11.03)」

の開催概要（スケジュール等）や準備状況に関する報告がなされた。

- ・東副会長より、会場費は日本地震学会が負担し、その他の費用は当学会が支出すること（資料 66-23）に対して承認してほしいとの要望があり、これに関しては理事会として承認された。
 - ・東副会長より、セミナー当日の受付係を事務局にお願いしたいとの要望があった。
- 14) 第 12 回日本地震学会・日本地震工学会会長懇談会の報告（高田会長）
- ・高田会長より、資料 66-14 に基づいて、日本地震学会・日本地震工学会会長懇談会に関して報告がなされた。共催セミナーや JEES での連携、地震学会の運営・活動に関するアンケート調査の結果、当学会の将来構想検討、海外との連携や留学生の状況等について報告・情報交換を行い、議論を行ったとの報告があった。
- 15) メール審議（1 件）結果報告（小林理事）
- ・小林理事より、資料 66-24 に基づいて、メール審議により長岡技術科学大学の志賀先生に対するトルコ・シリア地震の調査費用の補助が承認されたとの報告があった。

議案

第 1 号 入退会者（高橋理事）

- ・高橋理事より、資料 66-15-1～3 に基づいて、入退会者の報告がなされ、承認された。

第 2 号 共催・後援・協賛等（高橋理事）

- ・高橋理事より、資料 66-16 に基づいて、共催（1 件）、後援（1 件）、協賛（1 件）の継続の名義使用依頼について説明があり、承認された。

第 3 号 「大崎順彦（記念）賞」の設立に関する提案について（高橋理事）

- ・高橋理事より、資料 66-17 に基づいて、大崎順彦（記念）賞の設立に関して、提案の趣旨や論点（公益法人としての問題、学会との方向性、本賞の位置付け、受賞の条件、スケジュール等）、学会案の説明があった。
- ・小椋山理事より、分野に跨がるという点が若手の研究と合致するかどうか心配であるとの意見が出された。これに対して、高田会長からは、2 つ（以上）の分野を独自に研究の対象としていることを応募者がアピールすることが重要であるとの意見が出された。
- ・小椋山理事より、分野に跨がる研究者が共同で研究しているというのも対象にしてもよいのではないかとの意見が出された。
- ・中村理事より、賞の対象が個人なのかグループなのかをはっきりさせた方が良く、個人的な意見としては、優れた研究者に対して贈る個人の賞とした方が良くとの意見が出された。
- ・年縄理事より、異分野の研究者が集まって実施する研究は良いが、個人に対して 100 万円を贈呈するのは額が大き過ぎるのではないかとの意見が出された。
- ・室野監事より、若手のモチベーションの向上に繋がるのは良いと思うが、分野の定義が曖昧なのではないかとの意見が出された。これに対して、高田会長からは、分野の定義は応募者本人に考えてもらい、アピールしてもらう方が（分野横断をエンカレッジする上で）面白いではないかとの意見が出された。
- ・入江理事から、災害情報のような IT 技術の領域は賞の対象となるのかとの質問があり、高田会長から対象となるとの回答があった。また、入江理事から、国立大学や国の機関に属する研究者が受賞することに問題はないかとの質問が出され、高田会長から公益社団法人から出すことに問題はないとの回答があった。
- ・入江理事から、賞が設立されたときにはプレスリリースを行うべきとの意見が出された。
- ・皆川理事から、賞の名前について、もう少し分野横断がアピールできると良いとの意見が出され

た。

- ・高橋理事から、大崎総研は大きなインパクトを持たせるために 50 万円よりは 100 万円の贈呈を希望しているが、学会としては他の賞との差が大きくなる点は気になるとの意見が出された。
- ・高田会長からは、賞に設立に関しては大きな反対意見はなかったので、次に進めて行くことにしたいとの意見が出され、更に詳細な検討を実施していきたいとの発言があった。
- ・小林理事からは、表彰規定案を作って示すと議論が進むとの提案がなされた。

第 4 号 電子帳簿法対応事務処理規程と会員システム改修について（前川理事）

- ・前川理事より、資料 66-21 に基づいて、電子帳簿法対応事務処理規程と会員システム改修について説明がなされた。事務処理規程（案）の内容、会員管理システム、インボイス・電子帳簿保存法対応となるシステム改修の見積りなどについて説明があった。
- ・事務処理規程（案）、システム改修に関して理事会として承認された。

第 5 号 16JEES パシフィコ横浜への予約金残金支出等について（小檜山理事）

- ・報告事項 10 の報告の中で、16JEES における支出に関して承認された。

第 6 号 関東大震災 100 周年記念セミナーの開催費分担金支出について（東副会長）

- ・報告事項 13 の報告の中で、セミナーの分担金支出に関して承認された。

懇談事項

1) 18WCEE 支援内容（案）について（中村副会長・阿部理事）

- ・阿部理事より、資料 66-18 に基づいて、18WCEE 支援内容（案）について説明がなされた。交流イベント、情報資料の配布、名刺交換による情報・連絡先交換の概要とメリット、デメリットの説明があった。
- ・小林理事より、18WCEE の申込みのキャンセルチャージについて質問があり、阿部理事より 1 月くらいに締め切られるとの回答があった。
- ・高田会長から、会期中に日本人の関係者に集ってもらい、海外の学会長レベルの人と立食パーティーで交流するイベントをイメージしているとの説明があった。これに対して、中村副会長より、本提案は、学会長レベルでの交流を前提とした案なので、誰を対象とした懇親会なのかをはっきりさせて欲しいとの意見があった。阿部理事からは、会議ではバンケットなどもあるので本提案は学会長レベルで対面の懇親会としてやってもいいのではないかととの意見があった。
- ・小林理事より、案 1 と案 3 に関して、実行計画を具体化する方向で進めるのがよいのではないかととの提案があった。
- ・中村副会長より、メキシコ、アジア、イタリアなどの学会で参加が可能な候補者をリストアップしてはどうかとの提案がなされた。

2) 論文賞のスケジュールについて（年縄副会長）

- ・年縄副会長より、資料 66-17 に基づいて、令和 5 年度論文賞選考のスケジュールについて説明がなされた。

3) 口座の開設について（事務局）

- ・戸田事務局長より、資料 66-20 に基づいて、振込み手数料値上げに伴う新規口座開設についての説明がなされた。三菱 UFJ（法人口座）の振込み手数料が 10 月より大幅な値上げとなったため、振り込み専用としてインターネット口座を、早ければ 11 月、遅くとも 1 月には開設して、経費節減を図りたいとの説明があった。また、事務局から、他の学会に対して口座情報を聞いてみるとの発言があった。新規口座の開設を進めることに関しては、理事会として承認された。

その他

- ・小林理事から、2026年の年次大会を日本地震学会と合同で開催するには、日本地震学会に対して早めにアプローチする必要があるので、日本地震学会に打診することに対して承認して欲しい旨の発言があった。これに関連して、中嶋理事から、以前の合同開催では、強震動の分野でしか共同のセッションを行うことができなかったこと、学会の予算規模が違うので、会場の大きさについても考慮する必要があることなどの説明があった。2026年の共同開催に向けて検討を進めるために打診することに関しては、理事会として承認された。
- ・小林理事から、次回の理事会では、事業計画の策定、表彰、予算の策定など次年度に向けての審議に入ること、また、次年度の理事の選定依頼もあることの説明があった（副会長と総務は会長が選定、その他の理事に関しては各理事で後任を選定する）。

次回予定：（第67回理事会）：12月11日（月）15-18時（懇親会があるため早めに出欠を取る。）

以上 この議事録が正確であることを証します。

令和 年 月 日

議長 高田 毅 士

監事 室野 剛 隆